DENON

ホームシアターシステム

DHT-S7000

取扱説明書

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

ご使用になる前に ……… 3〜10

簡単セットアップと操作のしかた ……… 11〜16

他の機器との接続のしかた ……… 17〜19

基本操作のしかた ……… 20〜27

応用操作のしかた ……… 28

その他について ……… 29〜36

総目次

ご使用になる前に

安全上のご注意 ……3〜5
取り扱い上のご注意 ……6〜8
付属品について ……8
各部の名前について
AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）……9
ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）……10
リモコン ……10

簡単セットアップと操作のしかた

スピーカーシステムのレイアウト ……11
スピーカーの接続のしかた ……12
テレビ（モニター）を接続する ……13
DVDプレーヤー（DVDレコーダー）を接続する ……13
リモコンについて
リモコンの乾電池の入れかた ……14
リモコンの使いかた ……14
ワイヤレスレシーバーアンプの設定 ……15
ルーム設定 ……16
DVDディスクをサラウンド再生する ……16

他の機器との接続のしかた

接続ケーブルの表示 ……17
ビデオデッキの接続 ……18
BS/CSデジタルチューナーの接続 ……18
CDプレーヤーの接続 ……18
カセットデッキやMD/CDレコーダーの接続 ……19
アンプ内蔵サブウーハーの接続 ……19
ポータブルプレーヤーの接続 ……19
スピーカー接続コードの変えかた ……19

基本操作のしかた

再生のしかた
入力ソースを再生する ……20
入力モードについて ……20、21
サラウンド機能の操作のしかた
テストトーンによる再生レベルの確認と調節 ……22
ディレイタイムの設定（距離の設定） ……22
再生中のチャンネルレベルの調節 ……23
オートデコードモードで音を聴く ……23、24
ドルビーバーチャルスピーカーモードで音を聴く ……25
音楽専用2チャンネル再生モードで音を聴く ……25
DENONオリジナルサラウンドについて ……26
ドルビーヘッドホンモードで音を聴く ……26、27
スリープタイマーの設定 ……27
音質の調節 ……27
ラストファンクションメモリー機能 ……27

応用操作のしかた

リモコンによる他機器の操作のしかた ……28
マイコンの初期化について ……28
ペアリングの初期化について ……28

その他について

サラウンドについて ……29〜34
保証とサービスについて ……34
故障かな？と思ったら ……35
主な仕様 ……36

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

警告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を切るときには音量を最小にする

音量が大きいまま電源を入れると突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意 つづき

■ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

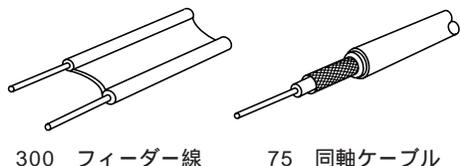
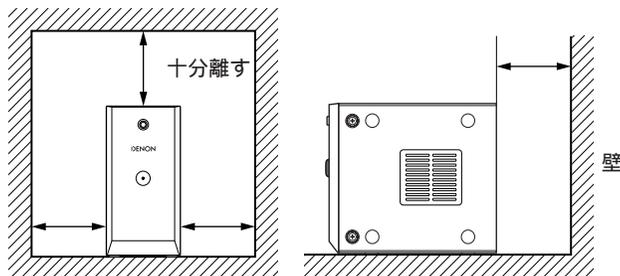
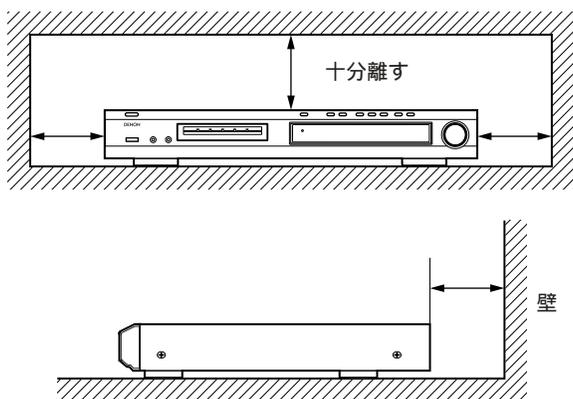
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

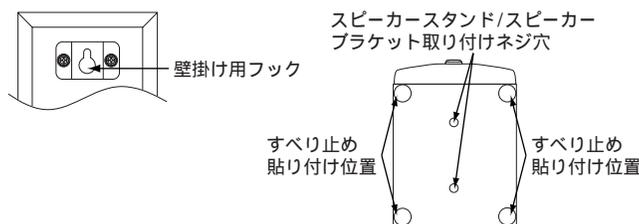
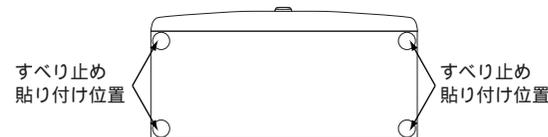
■ AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）/ ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）について

◎ 本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

- 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。
- チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。
- 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

◎ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは十分離して設置してください（下図参照）。

■ スピーカーシステムについて

◎ スピーカーシステムの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

- 本機をレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置するとハウリングを起こすことがありますのでご注意ください。
- 本機の背面や前面に壁やガラス戸などがある場合には、共振や反射を防止するために厚手のカーテンなどを掛けるようにしてください。
- 本機はテレビとの近接使用が可能な防磁型スピーカーシステムですが、テレビの種類によっては色むらを生じる場合があります。その場合には一度テレビの電源を切り、少し離して、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁回路により、画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離してご使用ください。
- フロント/センター/サラウンドスピーカー（SC-A7000/SC-C70/SC-A700）を台などの上に設置する場合、付属のすべり止め（厚さ約2mmのコルク）を底面のコーナー4ケ所に貼ってください。（下図参照）
  床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。

【フロント/サラウンドスピーカー（SC-A7000/A700）背面図】

【センタースピーカー（SC-C700）底面図】

- フロントスピーカー（SC-A7000）およびサラウンドスピーカー（SC-A700）をスタンドまたはブラケットに取り付ける場合は、フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーの底面の取り付けネジ穴を利用してください。
  別売りの床置きスタンド（ASS-100、ASS-80）、天井吊りブラケット（ASG-10、ASG-20）およびテレビサイドブラケット（ASG-11R）に取り付けることができます。取り付けに際しましては、スタンドやブラケットの説明書に従い、十分注意してしっかりと設置してください。
- フロント/サラウンドスピーカー（SC-A7000/SC-A700）を壁に掛けて使用する場合、フロント/サラウンドスピーカーの背面にある壁掛け穴を利用して壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にネジ頭などを差し込みます。
  スピーカーの質量に耐えられるしっかりとした壁に取り付けてください。
- サラウンドスピーカー（SC-A700）を天井吊りブラケットに取り付けた際、取り付けの角度により逆さになります。DENONマークが逆さになりますので、サランネットを外して逆さにして取り付けてください。
- スーパーウーハー（DSW-70）と同じ台や棚の上にレコードプレーヤーやDVDプレーヤーなどのＡＶ機器を設置しないでください。音とびを起こすことがあります。
- スーパーウーハーを付属の台座に設置する場合は、設置例（☞ 11ページ）を参照してください。

警　告

- 天井や壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- スピーカーコードを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、コードは必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。また、その後定期的に落下や転倒の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故について当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

電波に関するご注意

◎ 本機は電波法に基づく工事設計認証を取得した小電力データ通信システムの無線局設備を内蔵しています。

- 本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 本機は日本国内でのみ使用できます。

※以下のことをおこなうと法律で罰せられることがあります。
- 内蔵する小電力データ通信システムの無線局設備を分解/改造すること
- 内蔵する小電力データ通信システムの無線局設備に貼ってある証明ラベルをはがすこと

この機器の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、およびアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときには、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：株式会社デノンコンシューマーマーケティング
お客様相談センター 03（6731）5555
http://denon2.jp/info/

◎ 現品表示について

2.4 DS 4
▬ ▬ ▬

2.4	：2.4ＧＨｚ帯を使用する無線設備を表します。
DS	：変調方式を表します。
4	：移動体識別装置の構内無線局に対して想定される与干渉距離を表します（約40m）。
▬▬▬	：2.4ＧＨｚ帯の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

◎ 本機では、2.4GHzの周波数帯の電波を利用している関係で、下記機器と干渉し、音が途切れたり、雑音が発生したりする可能性があります。このような場合には、AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）のSTATUS表示またはワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000)の状態表示LEDが点滅または消灯しますが故障ではありません。

【2.4GHzの周波数帯を使用している主な機器】
- 電子レンジ
- 無線LANを利用した機器（ノートパソコン、無線ルーター、無線LAN対応AV機器等）
- コードレスフォン
- Bluetooth対応機器
- ワイヤレス対応AV機器
- ワイヤレスコントローラー

※ 音が途切れたり雑音が発生したりする場合には、下記の方法で改善する可能性があります。
1. AVサラウンドアンプ（AVC-S7000)のWIRELESS CHANNELボタンを押し干渉されない他のチャンネルを選択する。（☞ 15ページ）
2. 干渉している機器との距離を離す。
3. 干渉している機器の電源を切る。

◎ ペースメーカー等の医療用電気機器をご使用の場合には、各医療用電気機器メーカーまたは販売店に電波による影響をご確認の上ご使用ください。

◎ 人ごみの中で使用したり、AVサラウンドアンプ（AVC-S7000)とワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000)の間に鉄筋コンクリートの壁や家具などの障害物があると、通信状態が悪くなり音が途切れたり、雑音が発生したりすることがあります。音が途切れたり、雑音が発生したりする場合には、見通しの良い場所に設置し直して下さい。

◎ 設置の距離や障害物がない場合でも、電波の反射等により受信がうまくいかない場合があります。その場合にはワイヤレスレシーバーアンプ(RV-S7000)の向きや位置を変えると改善することがあります。

◎ ラジオやテレビ、BS/CSチューナーなどの電波を利用した機器のそばで使用すると、ノイズを発生することがあります。その場合には機器から遠ざけて設置してください。

《ご使用になる前に》

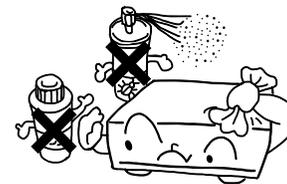
◎ 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、第三者が故意または偶然に受信する可能性があります。

◎ 本機はご家庭内での音楽、映画等の再生を目的にしたホームシアターシステムです。他の環境、目的での使用はおやめください。

お手入れについて

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

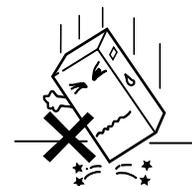
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

■ ふだん使わないとき

- 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてください。
- 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、長期間の外出やご旅行の場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

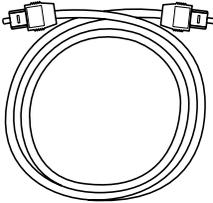
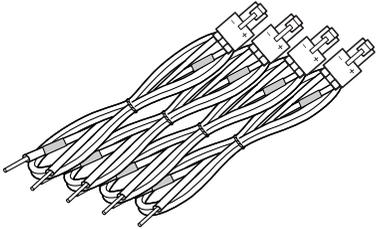
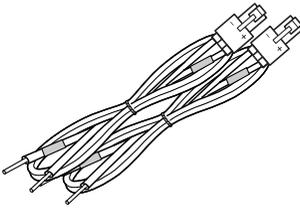
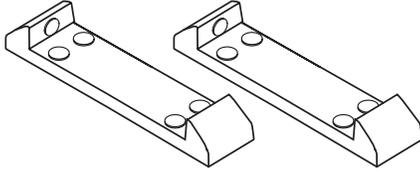
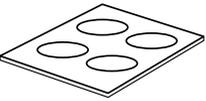
- 衝撃を与えないでください。
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。

その他のご注意

- AVサラウンドアンプの入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。
- AVサラウンドアンプのスピーカー端子にはミューティング回路が組み込まれています。そのため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節するとミューティング終了後、非常に大きな出力となりますので音量調節は必ず、ミューティング終了後におこなってください。
- 近くにマグネット（磁石）など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますのでご注意ください。

  【例】
  - ラック、置き台などの扉に装着されたマグネットがあるとき
  - マグネットを用いた健康器具などが近くに置かれているとき
  - その他、マグネットを使用した玩具などが近くに置かれているとき
- 長時間直射日光を受ける場所やストーブなどの暖房器具の近くに置くことは避けてください。
- 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置くと、故障の原因となる場合があります。
- 本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。
- 説明のためのイラストは、実際の機器と異なる場合があります。

付属品について

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

リモコン（RC-1025） 1個	単4乾電池 2本	光伝送ケーブル（長さ：0.9m） 1本
接続コードＡ（長さ：約3m） 4本 （接続コードのプラグおよびラベル色：白色/赤色/緑色/紫色） ※フロント用スピーカー（SC-A7000）、センター用スピーカー（SC-C70）およびスーパーウーハー（DSW-70）の接続に使用します。	接続コードB（長さ：約5m） 2本 （接続コードのプラグおよびラベル色：青色/灰色） ※サラウンド用スピーカー（SC-A700）の接続に使用します。	スーパーウーハー用台座 2個 すべり止め（1シート4個） スピーカー用（コルク） 5枚 ワイヤレスレシーバーアンプ用（ゴム） 1枚
取扱説明書（本書） 1冊	製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 1枚	保証書（梱包箱に添付されています。） 1部

ステレオ音のエチケット

- 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
- 窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
- お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部の名前について

AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）

各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

■ フロントパネル

1. ON/STANDBY（電源）ボタン ……（15）
2. WIRELESS CHANNEL ボタン …（15）
3. FUNCTION ボタン ……（16、20）
4. SURROUND MODE ボタン ……（20）
5. SDB/P.EQ ボタン ……（27）
6. SELECT（◄ ►）ボタン ……（15、20、22）
7. MENU/SET ボタン ……（15、20）
8. SURROUND PARAMETER ボタン ……（23〜27）
9. MASTER VOLUME（主音量）調節つまみ ……（16）
10. ディスプレイ ……（9）
11. STANDBY（電源）表示 ……（15）
12. 選択チャンネル（CH.1〜CH.4）表示 ……（15）
13. STATUS 表示 ……（15）
14. PORTABLE IN ジャック ……（19）
15. PHONES ジャック ……（26）
16. リモコン受光部 ……（14）

■ リアパネル

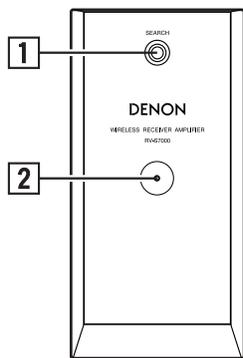
1. スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS FL/FR/C/SW）……（12）
2. サブウーハープリアウト端子（SUBWOOFER PRE OUT）…（19）
3. デジタル音声入力端子（DIGITAL IN (OPT.)）……（13、18、19）
4. VCRアナログ音声入出力端子（AUDIO IN/OUT）……（18）
5. MD/TAPEアナログ音声入出力端子（AUDIO IN/OUT）……（19）
6. TV/AUX1アナログ音声入力端子（AUDIO IN）……（18）
7. DVDアナログ音声入力端子（AUDIO IN）……（13）
8. モニター映像出力端子（MONITOR OUT）……（13）
9. VCR映像入出力端子（S-VIDEO/VIDEO IN/OUT）…（18）
10. TV/AUX1映像入力端子（S-VIDEO/VIDEO IN）……（18）
11. DVD映像入力端子（S-VIDEO/VIDEO IN）……（13）

■ ディスプレイ

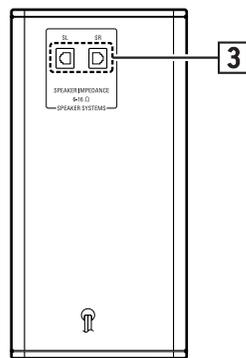
1. 入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などを表示します。
2. 音量レベルを表示します。
3. リモコン信号を受信したときに点灯します。
4. スリープタイマー設定時に点灯します。
5. デノンオリジナルサラウンド設定時に点灯します。
6. SDB（スーパーダイナミックバス）が“ ON ”の状態のときに点灯します。
7. トーンコントロール（BASS、TREBLE）が“ ON ”の状態のときに点灯します。
8. 本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれの表示が点灯します。
9. 入力信号/モードに合わせてそれぞれの表示が点灯します。

ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）

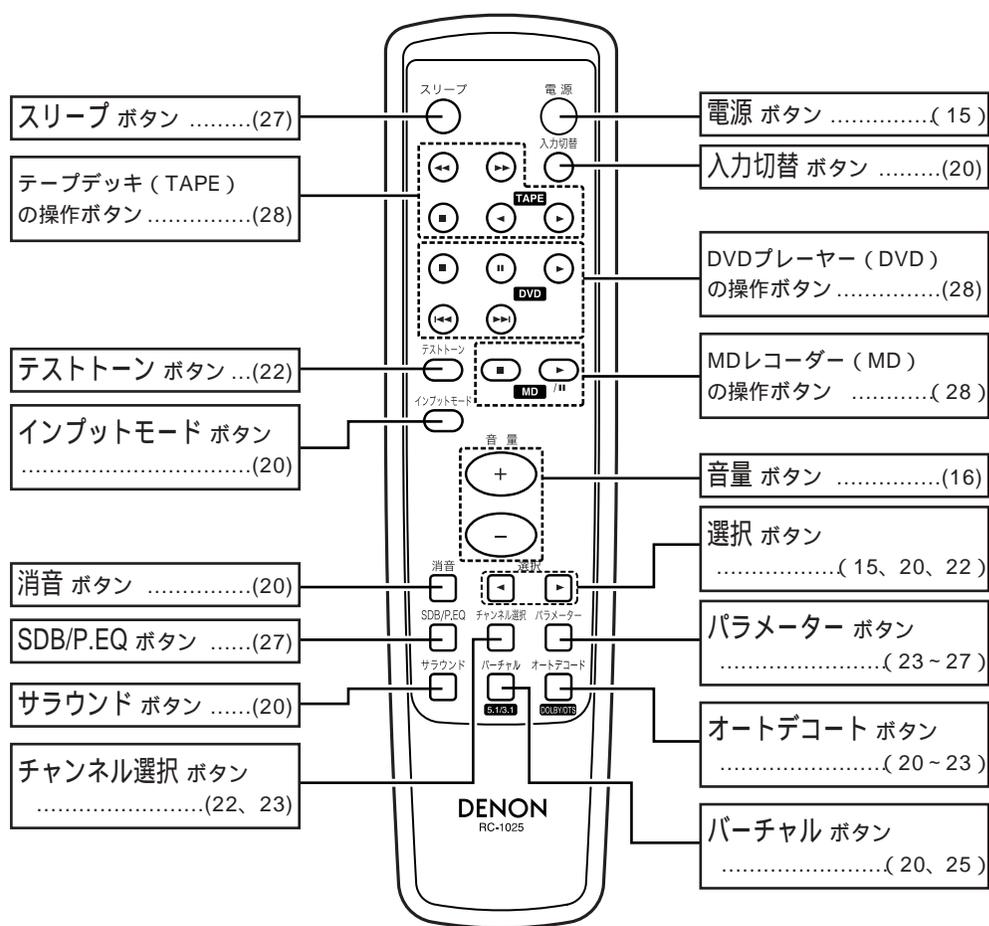
各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

■ フロントパネル

1 SEARCH（サーチ）ボタン ……………………（15）

2 状態表示LED ……………………………（15）

■ リアパネル

3 スピーカー端子
(SPEAKER SYSTEMS SL/SR)
……………………………………………（12）

リモコン

各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

簡単セットアップと操作のしかた

本機は付属されているそれぞれのコードを使って、AVサラウンドアンプ（AVC-S7000)、ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000)、スピーカー（SC-A700/SC-C70/SC-A7000)、スーパーウーハー（DSW-70)、およびお手持ちのテレビとDVDプレーヤーを接続するだけで簡単にホームシアターが楽しめます。
ここでは接続からDVDディスクを再生するまでを簡単にガイドします。

ご注意

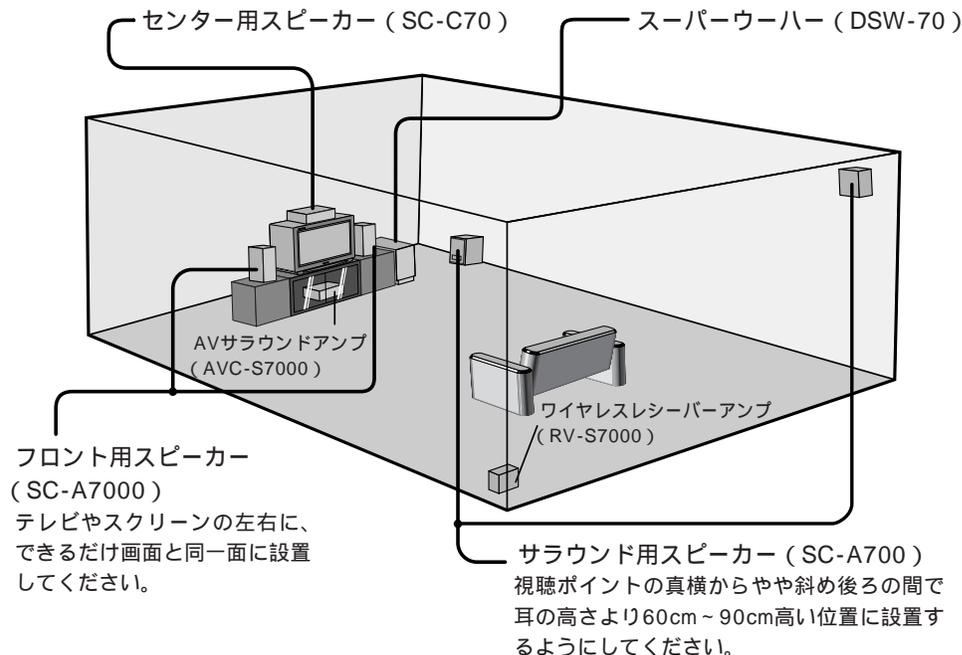
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- AVサラウンドアンプには付属の接続コードで、付属のスピーカー以外は接続しないでください。
  指定機器以外を接続すると、誤動作を起こすだけでなく、AVサラウンドアンプの故障や火災などの原因にもなります。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 電源コードを接続コードと一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続コードを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

AVサラウンドアンプには高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、STANDBY表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーシステムのレイアウト

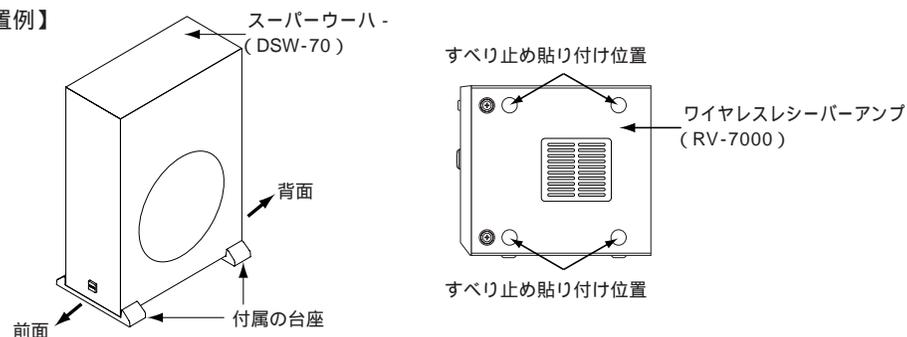
■ 基本的なシステムレイアウト

スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

■ スーパーウーハー（DSW-70）

◎ スーパーウーハー（DSW-70）を付属の台座に設置する場合、下図のようにスーパーウーハーの前面および背面に合わせて台座をそれぞれ設置してください。

【設置例】

■ ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）

◎ ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）を横置きで使用する場合は、付属のすべり止めを枠に合わせて貼り付けてください。

スピーカーの接続のしかた

- 付属の接続コードはプラグおよびラベルで色分けがされていますので、アンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。
- **付属の接続コードの色ラベル付きの方をプラス（＋）側に接続してください。**

アンプとスピーカーコードの接続

① スピーカー端子の色とスピーカーコードの色を合わせる。

② ロックレバーの方向を確認して差し込む。
赤/白：ロックレバー上
緑/紫：ロックレバー下
灰：ロックレバー右
青：ロックレバー左

※ プラグは「カチッ」と音がするまで、しっかり奥まで差し込んでください。

※ コードを外すときはプラグのロックレバーを押しながら抜きます。

スピーカーとスピーカーコードの接続

① レバーを押し下げる。

② コードの芯線を穴の中に差し込む。
③ レバーから手を離す。

④ コードを軽く引っ張って抜けないことを確認する。

メモ

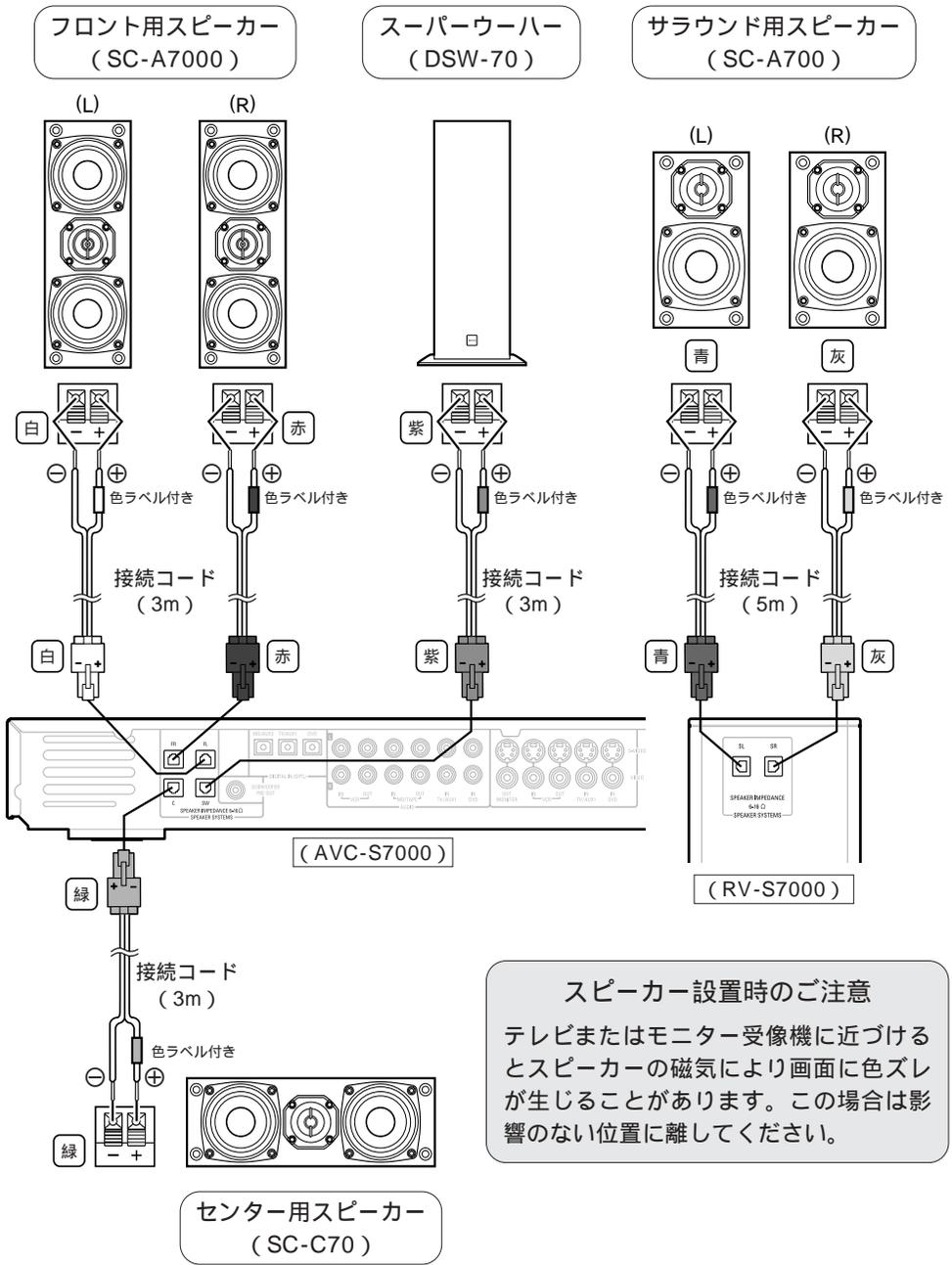
- 極性を間違えると、位相が変わったり低音域のない不自然な再生音になってしまいます。

ご注意

- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- 接続コードのプラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。
- 回路の故障を防ぐため、接続コードの芯線のプラス（＋）とマイナス（－）を絶対にショートさせないでください。

■ スピーカーの接続

フロント用スピーカー（SC-A7000）
スーパーウーハー（DSW-70）
サラウンド用スピーカー（SC-A700）

(L) (R)
白　赤　紫　青　灰
色ラベル付き
接続コード（3m）
接続コード（5m）
（AVC-S7000）
（RV-S7000）
緑
接続コード（3m）
色ラベル付き
センター用スピーカー（SC-C70）

スピーカー設置時のご注意

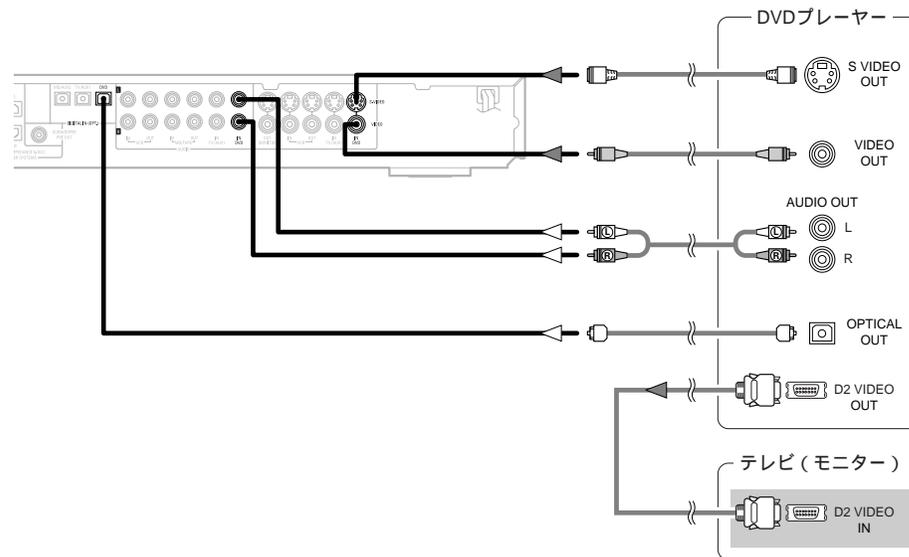
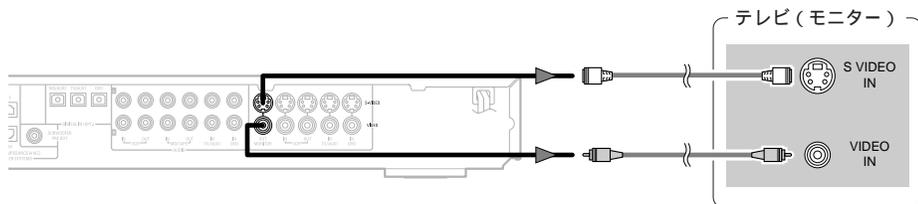
テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

テレビ（モニター）を接続する

- 接続の際は、テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- テレビの映像信号は、市販の映像用75Ωピンプラグケーブルまたは S端子用接続ケーブルのどちらかで本機と接続します。

《簡単セットアップと操作のしかた》

DVDプレーヤー（DVDレコーダー）を接続する

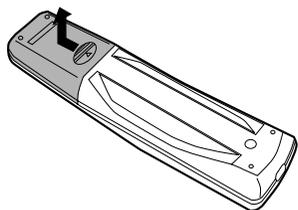
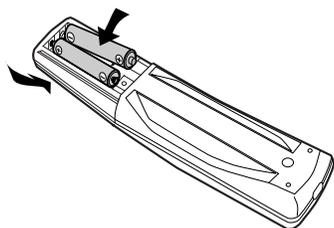
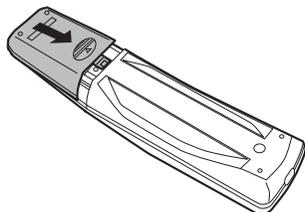
- 接続の際は、DVDプレーヤーの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- DVDプレーヤーの映像信号は、テレビ（モニター）の接続に合わせ市販の映像用75Ωピンプラグケーブルまたは S端子用接続ケーブルのどちらかで本機と接続します。
- デジタル音声を再生する場合は、付属の光伝送ケーブルで接続します。
- DVDプレーヤーでDTSダウンミックス機能を搭載していない機器では、DTSソースのアナログステレオ音声が出力されません。他の録音機器へのアナログ録音はできません。詳細はDVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

メモ

- S映像端子に入力された映像信号はS映像端子から、映像端子（黄）に入力された映像信号は映像端子（黄）からのみ出力されます。
- 本機にはD映像入出力端子がありませんので、D映像信号で楽しみたい場合は、直接DVDプレーヤーからテレビに接続してください。
- 付属の光伝送ケーブル挿入時には、先端のキャップを外してください。

リモコンについて

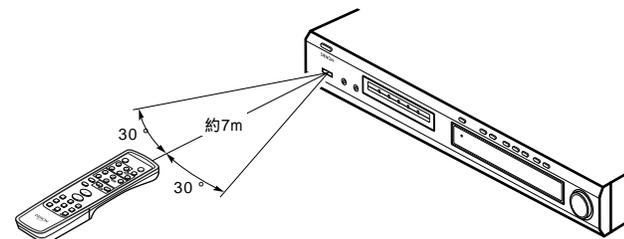
付属のリモコン（RC-1025）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。（☞ 28ページ）

リモコンの乾電池の入れかた

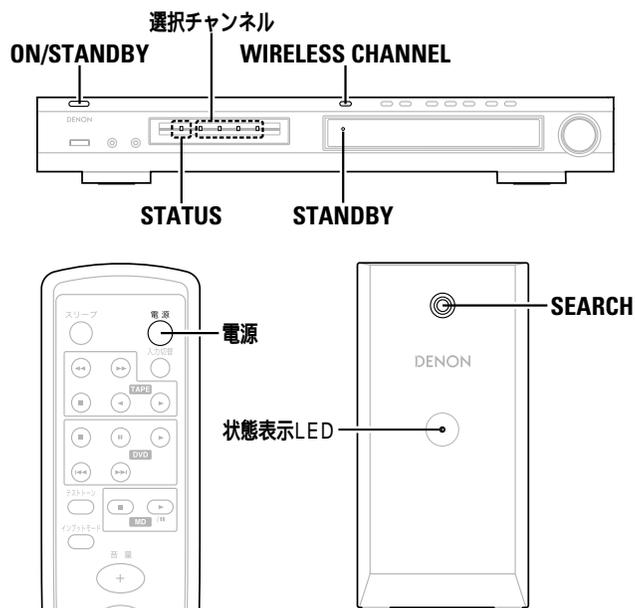
① 矢印のように押して引き上げます。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

リモコンの使いかた

- リモコンは図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

ワイヤレスレシーバーアンプの設定

1 **すべての接続が正しいか確認し、それぞれの機器の電源コードを壁の電源コンセントに差し込む。**

2 **ON/STANDBY ボタンまたは 電源 ボタンを押す。**
- AVサラウンドアンプの **STANDBY** 表示が消え、電源が入り、ディスプレイが点灯します。
- ワイヤレスレシーバーアンプと通信が開始し、**STATUS** 表示と **状態表示LED** が青色に点滅して通信状態の良いチャンネルを自動的に選択します。（オート選択モード）
  チャンネルを選択すると青色に点灯します。
  選択されたチャンネルの表示が点灯します。

※ **ON/STANDBY** ボタンまたは **電源** ボタンを押してから音声が出力されるまで数秒間かかります。これは、電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。ミューティング動作中はSTANDBYと表示が赤色に点滅します。

※ もう一度 **ON/STANDBY** ボタンまたは **電源** ボタンを押すと **STANDBY** 表示と **状態表示LED** は赤色になり、AVサラウンドアンプ、ワイヤレスレシーバーアンプともにスタンバイ状態になります。

※ 本機では、10分以上サラウンドスピーカーに音声出力がない場合（PCMステレオのソフトを2chまたは2.1ch再生した場合等）は節電のため、ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）は自動的にスタンバイモードになり、**STATUS** 表示が消灯します。サラウンドスピーカーに音声が出力されるとワイヤレスレシーバーアンプの電源は自動で入りますが、切り替えのため始めの数秒間は音声がサラウンドスピーカーから出力されません。

※ 本機では、お買い上げ後、初めて電源を入れたときにAVサラウンドアンプとワイヤレスレシーバーアンプが自動的に通信相手を認識し混信を防止するシステムになっています。（ペアリング機能）

■ 手動でチャンネルを選択するには（マニュアル選択モード）

WIRELESS CHANNEL ボタンを押す。
- ボタンを押すたびにチャンネルが順番に切り替わります。
  選択チャンネル 表示は選択したチャンネルが点灯します。

■ チャンネル選択モードについて

本機では2つのチャンネル選択モードがあります。

【オート選択モード】
- お買い上げ後、初めて電源を入れたときに通信状態の良いチャンネルを自動的に選択します。
- 電波の障害があり、通信状態が悪くなると自動的に通信状態の良いチャンネルを選択します。
- 通信状態が良いチャンネルを一度選択すると、次回電源を入れ直したときも同じチャンネルを選択します。（ラストチャンネルメモリー機能）
- 現在オート選択モードであることを示すため、電源を入れたときに **選択チャンネル** 表示が順に点灯します。

《簡単セットアップと操作のしかた》

【マニュアル選択モード】
- **WIRELESS CHANNEL** ボタンを押してチャンネルを選択したときに本モードに切り替わります。
- 通信状態が悪くなっても選択したチャンネルで接続し続けます。
- 次回電源を入れ直したときも同じチャンネルを選択します。（ラストチャンネルメモリー機能）
- 電源を入れたときには選択したチャンネル表示のみが点灯します。

■ もう一度オート選択モードにするには

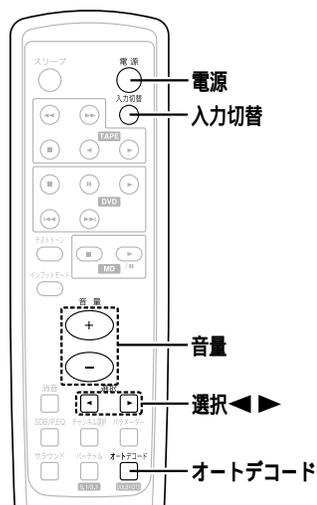
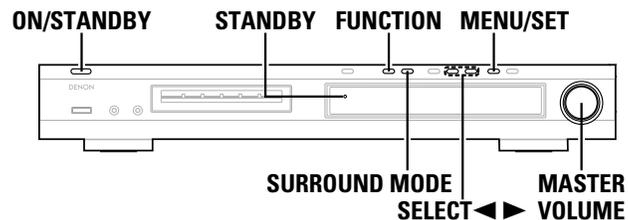
1 **WIRELESS CHANNEL ボタンを3秒以上押す。**
- **STATUS** 表示が点滅に変わります。

2 **ON/STANDBY ボタンを押してスタンバイ状態にする。**

3 **もう一度 ON/STANDBY ボタンを押す。**
- **選択チャンネル** 表示が順に点滅しオート選択モードに切り替わります。
- チャンネルは前回選択したチャンネルが選択されます。（ラストチャンネルメモリー機能）

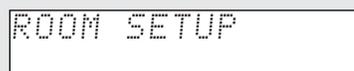
※ 操作 1 の点滅中、点滅終了後にかかわらず次回 **ON/STANDBY** ボタンを押し、セットのON/STANDBYを切り替えたときにオート選択モードに切り替わります。

メモ
- 電波の状態によっては音が出なくなったり、ノイズが入ったりすることがありますが故障ではありません。その場合は、ワイヤレスレシーバーアンプの位置や向きを変えることで改善することがあります。
- **STATUS** 表示が点滅または消灯し、ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）と通信していない場合には **SEARCH** ボタンを押すと通信が回復することがありあます。
- AVサラウンドアンプとワイヤレスレシーバーアンプとの間に金属やコンクリートの壁などの障害物があると電波をさえぎってしまい、音が出なくなることがあります。その場合は、ワイヤレスレシーバーアンプを見通しの良い場所に移動してください。
- AVサラウンドアンプとワイヤレスレシーバーアンプとの通信可能距離は約10mですが、使用環境によってはこの距離以下でも通信できない場合があります。

ルーム設定

本機は工場出荷時に、あらかじめ一般的な内容にシステム設定がされており、システム変更をおこなう必要がなければ、そのままの状態で使用できます。
6畳以上の広いスペースにスピーカーを設置する場合には、ルーム設定をおこなってから使用してください。

1 **ON/STANDBY ボタンまたは 電源 ボタンを押して電源を切る。**
- スタンバイ状態になり、**STANDBY** 表示が赤色になります。

2 **MENU/SET ボタンを2秒以上押す。**
- ディスプレイが点灯し、“ ROOM　SETUP ” が表示されます。

ROOM SETUP

3 **SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押してスピーカーの設置スペースを選択する。**

6（2.7×3.6）<工場出荷時>：
6畳以下のときに選択します。

8（3.6×3.6）：
6〜8畳のときに選択します。

12（3.6×5.4）：
8〜12畳のときに選択します。

15（4.5×5.4）：
12〜15畳のときに選択します。

20（4.5×7.2）：
15〜20畳のときに選択します。

4 **MENU/SET ボタンを押す。**
- スタンバイ状態に戻ります。

DVDディスクをサラウンド再生する

工場出荷時（初期値）の設定でサラウンド再生を楽しむことができますが、より最適なサラウンド再生をおこなうためには、テストトーンによる各チャンネルレベルの調節（☞22ページ）やスピーカーの距離設定（ディレイタイム）（☞22ページ）などを設定することをおすすめします。

1 **DVDプレーヤーの電源を入れ、DVDディスクをセットする。**

2 **テレビの電源を入れて、DVDプレーヤーの映像を見ることができるようにテレビの入力を切り替える。**

3 **FUNCTION ボタンまたは 入力切替 ボタンを押して“ DVD ”を選択する。**

4 **SURROUND MODE ボタンまたは オートデコード ボタンを押して“ AUTO DECODE ”を選択する。**
- 再生するディスクの信号によって、ドルビーデジタル/DTS/PCMを選択し、ドルビーデジタル/DTS/オートステレオのいずれかの方法で自動的にデコードおよび再生をおこないます。

5 **DVDディスクを再生する。**
- ディスクの種類によって、下記の表示に変わります。

【例】 DOLBY DIGITAL マークのディスク再生時

DDIGITAL DVD
DIGITAL

【例】 DIGITAL dts SURROUND マークのディスク再生時

DTS DVD
DTS

【例】 COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークのディスク再生時

AUTO ST DVD
PCM

6 **音量を調節する。**

※ 音量は0（最小）〜69（最大）の範囲で調節できます。

（本体）

（リモコン）

20 ── 音量がディスプレイに表示されます。

他の機器との接続のしかた

接続ケーブルの表示

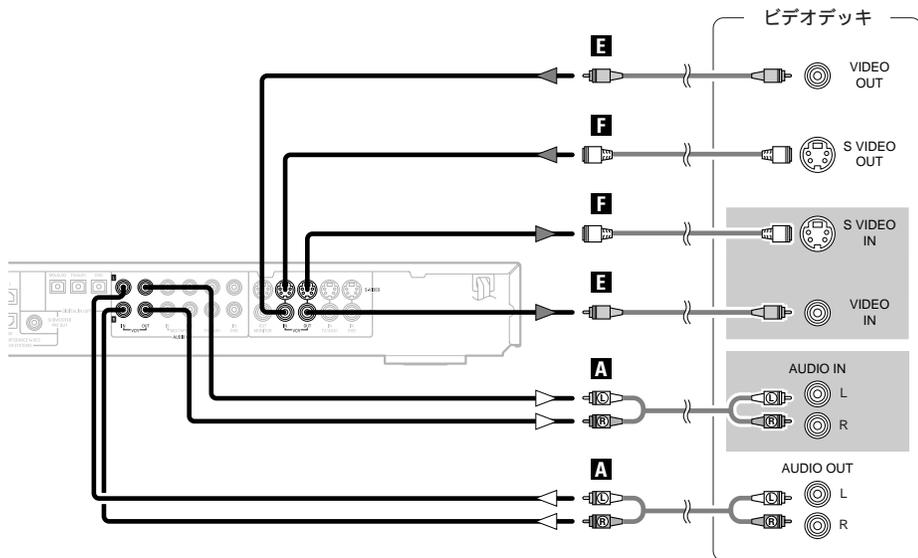
電源コンセントから電源コードを外した後で、他の機器を接続してください。
下図に示す接続ケーブル（市販）を使用して、他の機器を接続してください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続ケーブルを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

ビデオデッキの接続

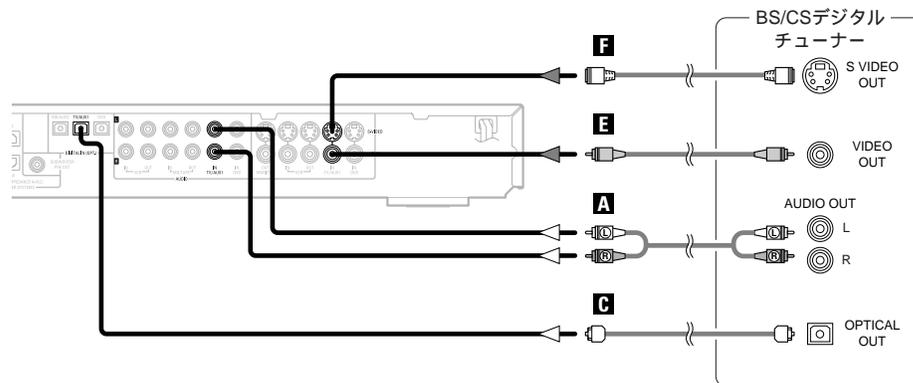
- ビデオデッキの映像信号は、テレビ（モニター）の接続に合わせ市販の映像用75Ωピンプラグケーブルまたは S端子用接続ケーブルのどちらかで本機と接続します。
- 映像および音声入出力信号は本機のVCR IN/OUT端子に接続します。

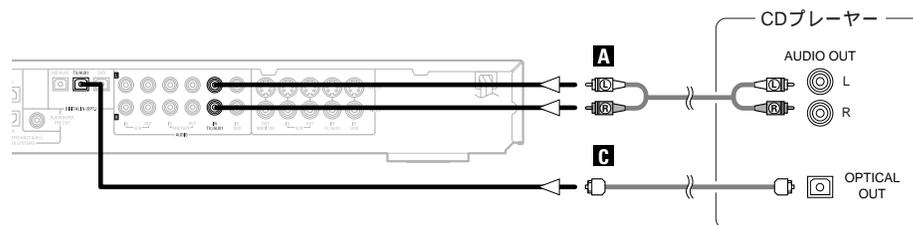
※ 各接続ケーブルの詳細は接続ケーブルの表示（☞ 17ページ）をご覧ください。

ご注意

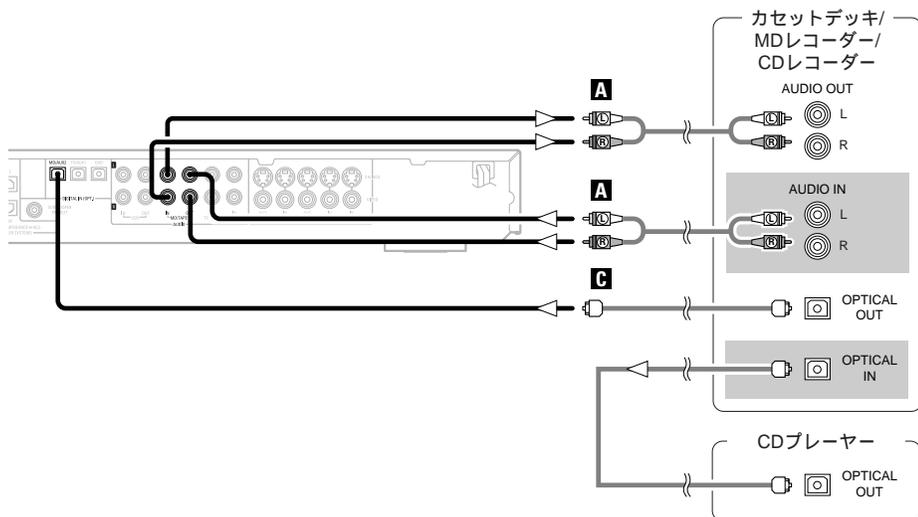
- 本機のVCR（OUT）端子はDVD、TV/AUX1、MD/TAPE、PORTABLE端子に接続されたアナログ映像、音声信号のみ出力されるように設定されています。デジタル音声入力端子に入力した音声信号は出力されません。
- VCR（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には、必ず本機の電源を“ ON ”にしてください。STANDBY状態では、正しく録音ができません。
- 本機を通して録画するときは再生機器のケーブルの種類と本機の映像出力端子に接続するケーブルの種類を同じにしてください。

《他の機器との接続のしかた》

BS/CSデジタルチューナーの接続

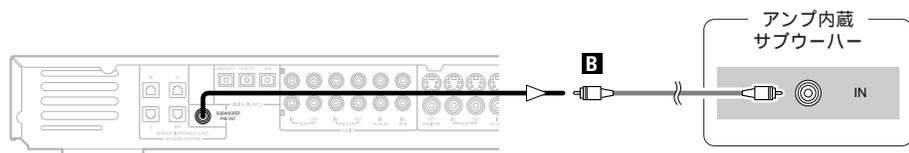
- BS/CSデジタルチューナーの映像信号は、テレビ（モニター）の接続に合わせ市販の映像用75Ωピンプラグケーブルまたは S端子用接続ケーブルのどちらかで本機と接続します。
- 映像および音声入力信号（デジタル音声は入力のみ）は本機のTV/AUX1端子に接続します。

CDプレーヤーの接続

- CDプレーヤーの音声入力信号は本機のTV/AUX1端子に接続します。

カセットデッキやMD/CDレコーダーの接続

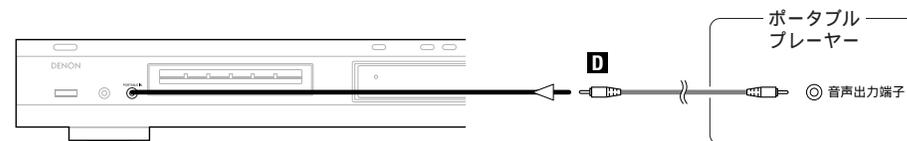
- カセットデッキやMD/CDレコーダーの音声入出力信号は本機のMD/TAPE IN/OUT端子に接続します。
- デジタル音声は入力のみで、本機のDIGITAL IN MD/AUX2端子に接続します。
- ファンクションをMD/TAPEにした場合はアナログ音声のみ、ファンクションをMD/AUX2にした場合はデジタル音声のみ出力されます。
- MD/CDレコーダーにデジタル録音をする場合は、直接録音する機器どうしを接続してください。

ご注意

- 本機のMD/TAPE（OUT）端子はDVD、TV/AUX1、VCR端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるように設定されています。デジタル音声入力端子に入力した音声信号は出力されません。
- MD/TAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には、必ず本機の電源を“ON”にしてください。STANDBY状態では、正しく録音ができません。

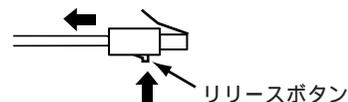
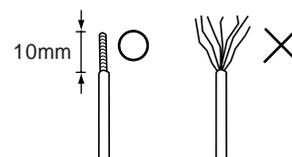
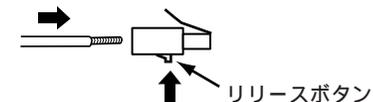
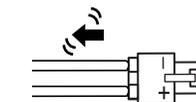
アンプ内蔵サブウーハーの接続

《他の機器との接続のしかた》

ポータブルプレーヤーの接続

本機のポータブルジャックにポータブルプレーヤーを接続することで、ポータブルプレーヤーの音楽を再生できます。

- PORTABLE IN端子の最大許容入力は1Vrmsです。

スピーカー接続コードの変えかた

付属の接続コードを延長したい場合など、スピーカー接続コードを交換することができます。

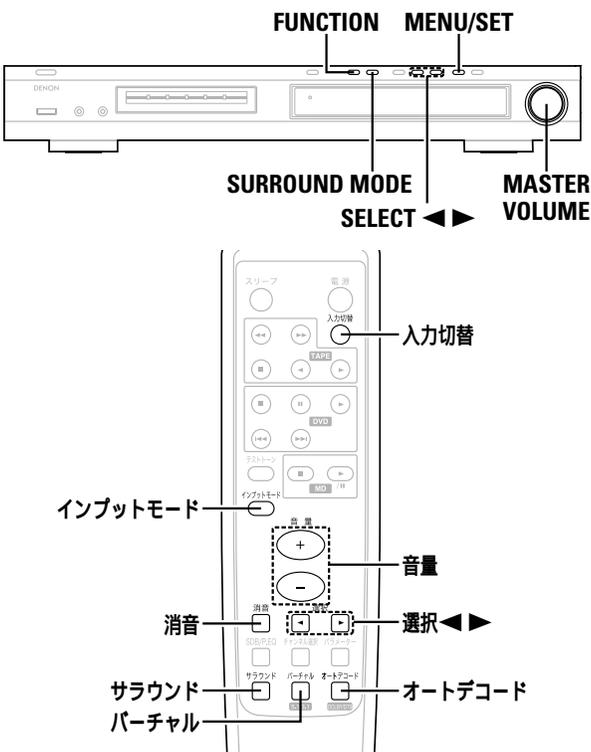
① ロックレバーと反対側のリリースボタンを押しながら、コードをプラグから抜きます。

② 交換するコードの先端の被覆をはがして、先端がばらけないようにしっかりよじります。

③ リリースボタンを押しながら、コードの極性＋と－をプラグの＋と－に合わせて芯線を差し込みます。

④ リリースボタンを離し、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認します。

 メモ

- 本機のスピーカープラグに接続できるスピーカー接続コードの太さは最大1.2mm程度です。
- リリースボタン側を机など平らな面に押し付けて、コードの抜き差しをすると簡単です。

ご注意

- 必ず、AVサラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜いた後で交換をおこなってください。
- コードの＋側と－側の芯線どうしがショートしていないことを確認してください。
- コードの芯線がプラグからはみ出して他の端子に接触しないことを確認してから、極性をまちがえないように正しく接続してください。

基本操作のしかた

再生のしかた

入力ソースを再生する

1 **FUNCTION ボタンまたは 入力切替 ボタンを押して再生したい入力ソースを選択する。**

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

※1…… アナログ音声のみ
※2…… デジタル音声のみ

2 **SURROUND MODE ボタンまたは サラウンド ボタン押してサラウンドモードを選択する。**

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

※ “ AUTO DECODE ” はリモコンの **オートデコード** ボタン、“ DOLBY VS ” はリモコンの **バーチャル** ボタンを押すとダイレクトに選択できます。
※ 入力するソースによって表示されないものがあります。

3 **選択した機器の再生を始める。**

※ 操作のしかたは各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **音量を調節する。**

（本体）

（リモコン）

20 ― 音量がディスプレイに表示されます。

※ 音量は 0（最小）～ 69（最大）の範囲で調節できます。ただし、入力信号、サラウンドモード、スピーカー設定およびチャンネルレベルの設定によっては、音量が “ 69 ” まで調節できない場合があります。

■ 再生しているプログラムソース、各種設定などを確認するには

MENU/SET ボタンを押して “ STATUS ” を表示させ、SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押す。

● **SELECT ◀ ▶** ボタンまたは **選択 ◀ ▶** ボタンを押すたびに、現在のプログラムソースやサラウンドの各種設定がディスプレイに表示されます。

※ ボタン操作を止めて数秒経つと、表示が通常状態に戻ります。

■ 一時的に音を消すには（ミューティング）

消音 ボタンを押す。

※ 解除するためには再度 **消音** ボタンを押すか、**MASTER VOLUME** つまみを回すまたは **音量** ボタンを押してください。

入力モードについて

本機には、入力された音声信号の種類を自動で識別する “ AUTO ”モードを使用しますが、入力された音声信号に対し、手動で切り替えるモードも装備しています。

● “ DVD ”、“ TV/AUX1 ” および “ MD/AUX2 ” のファンクションについて選択できます。
● 入力モードは各ファンクションごとに選択できます。また、選択された入力モードは各ファンクションごとに記憶されます。

インプットモード ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ AUTO → PCM → DTS → ANALOG ─┐（AUTO へ戻る）

AUTO（オートモード）：
選択されたファンクションごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。デジタル入力をしているファンクションで選択することが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。

PCM（PCM信号再生専用モード）：
PCM信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。
ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

DTS（DTS信号再生専用モード）：
DTS信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）：
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。
（ファンクションが“ MD/AUX2 ”では選択できません。）

CDソースの再生をおこなう場合の入力モード

- 『AUTO』モードにしてライブ録音などのCDを再生した場合、再生の始めの音声が若干途切れる場合があります。このような場合は、『PCM』モードで再生してください。

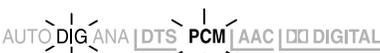
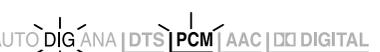
DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS対応のCDを『PCM』モードで再生してもDTS再生できないため、ノイズが出力されます。DTS対応のソースを再生する場合は、必ず入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- 『AUTO』モードでDTSを再生した場合、再生の始めおよびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

■ 入力モードの表示

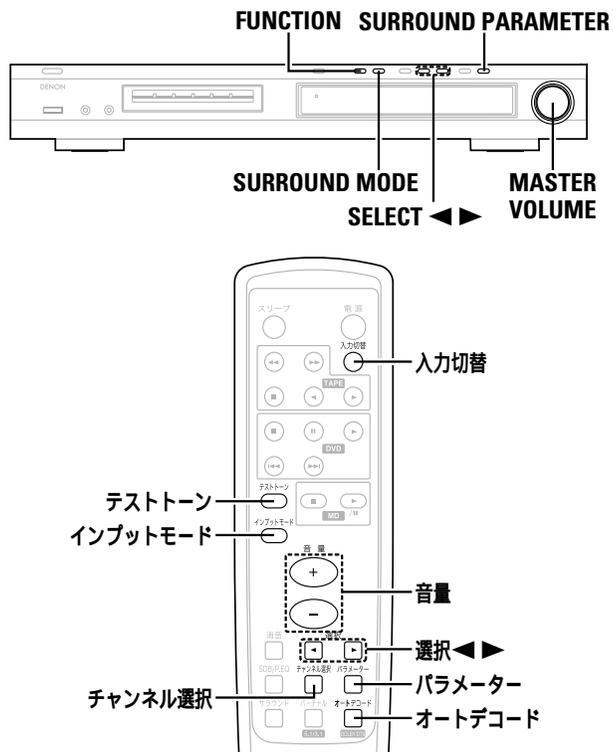
- AUTOモード時　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
  入力信号によって点灯
- PCMモード時　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
- DTSモード時　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
- ANALOGモード時　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL

■ 入力信号の表示

- DOLBY DIGITAL　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
- PCM　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
- DTS　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL
- AAC　AUTO DIG ANA | DTS | PCM | AAC | DD DIGITAL

メモ

- デジタル信号が正常に入力されると“ DIG ”が点灯します。点滅している場合は接続が正しいか、または入力機器の電源が入っているかを確認してください。
- オーディオ以外のデータが記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに“ DIG ”が点灯しますが音声は聞けません。
- DVDプレーヤーの中にはデジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

《基本操作のしかた》

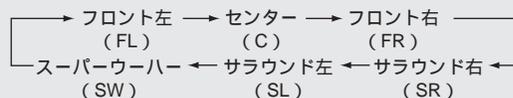
サラウンド機能の操作のしかた

テストトーンによる再生レベルの確認と調節

より最適なサラウンド再生をおこなうためには、サラウンド再生の前にテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの確認と調節をおこなってください。
テストトーンで調節したチャンネルレベルはすべてのサラウンドモードに適用されます。

メモ

- テストトーンの音量は **MASTER VOLUME** つまみまたは **音量** ボタンで調節しやすい音量にしてからおこなってください。

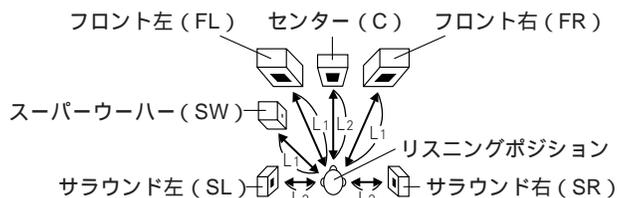
1 **オートデコード ボタンを押して“ AUTO DECODE ” を選択し、テストトーン ボタンを押す。**
- 下記の順序で2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

フロント左（FL） → センター（C） → フロント右（FR） → サラウンド右（SR） → サラウンド左（SL） → スーパーウーハー（SW） → フロント左（FL）

2 **各スピーカーの音量が同じになるように SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押す。**
- 各チャンネルレベルは－12dB～12dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

3 **調節が終わったら、もう一度 テストトーン ボタン押す。**

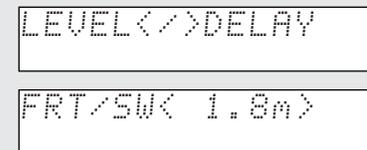
ディレイタイムの設定（距離の設定）

より正確なサラウンド再生をおこなうためには、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。

【準備】 リスニングポジションと各スピーカーとの距離下図のL1～L3）を測定します。

L1：フロント左/右およびスーパーウーハーとリスニングポジションとの距離
L2：センタースピーカーとリスニングポジションとの距離
L3：サラウンド左/右スピーカーとリスニングポジションとの距離

1 **チャンネル選択 ボタンを押してチャンネルレベルとディレイタイム選択表示を表示させ、選択 ▶ ボタンを押して “ DELAY ” を選択する。**
- フロントスピーカーおよびスーパーウーハーのリスニングポジションとの距離が表示されます。

LEVEL</>DELAY

FRT/SW< 1.8m>

2 **チャンネル選択 ボタンを押してディレイタイムを設定したいスピーカーを選択し、選択 ◀ ▶ ボタンを押してディレイタイムを設定する。**
- **チャンネル選択** ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

フロント/スーパーウーハー（FRT/SW） → センター（CENTER） → サラウンド（SURR） → END → フロント/スーパーウーハー（FRT/SW）

- 各ディレイタイムは0.3m単位ずつ設定できますので、測定した距離に最も近い値を設定します。

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも4.5m以下にしてください。
不適切な距離を設定すると距離表示が点滅しますので、スピーカーの位置を変更して再設定してください。

3 **設定が終了したら チャンネル選択 ボタンを押して “ END ” を選択する。**
- 数秒経つと表示が通常状態に戻ります。

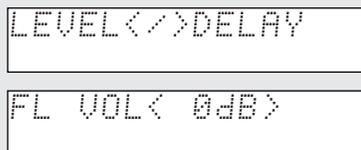
再生中のチャンネルレベルの調節

テストトーンによる調節後も、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各スピーカーの音量の調節をおこなうことができます。
調節したチャンネルレベルは各サラウンドモードごとに自動的に記憶されます。

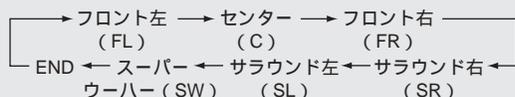
1 **チャンネル選択 ボタンを押してチャンネルレベルとディレイタイム選択表示を表示させ、選択 ◀ ボタンを押して“LEVEL”を選択する。**

- フロントスピーカーおよびスーパーウーハーのリスニングポジションとの距離が表示されます。

LEVEL</>DELAY

FL VOL< 0dB>

2 **チャンネル選択 ボタンを押してチャンネルレベルを調節したいスピーカーを選択し、選択 ◀ ▶ ボタンを押してチャンネルレベルを調節する。**

- **チャンネル選択** ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ フロント左（FL） → センター（C） → フロント右（FR）
END ← スーパーウーハー（SW） ← サラウンド左（SL） ← サラウンド右（SR）

- 各チャンネルレベルは1dB単位ずつ、－12dB～12dBまで調節できます。

3 **設定が終了したら チャンネル選択 ボタンを押して“END”を選択する。**

- 数秒経つと表示が通常状態に戻ります。

オートデコードモードで音を聴く

- オートデコードモードでは入力された信号フォーマットに応じてドルビーデジタルのマルチチャンネル、DTSおよびAACのマルチチャンネルソースに対して自動的にデコードし、マルチチャンネル再生ができます。
- 2チャンネルソースに対しても、2チャンネルモード設定により再生できます。

■ ドルビーデジタル/DTS/AACサラウンドモードの再生（デジタル入力のみ）

1 **FUNCTION ボタンまたは 入力切替 ボタンを押して入力ソースを選択する。**

2 **インプットモード ボタンを押して入力モードを“AUTO”に設定する。**

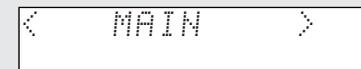
※ DTSソースは入力モード“DTS”でも再生できます。

3 **SURROUND MODE ボタンまたは オートデコード ボタン押してサラウンドモードを“AUTO DECODE”に設定する。**

4 **DOLBY DIGITAL、dts マークが付いたプログラムソースまたはAACのプログラムソースを再生する。**

- ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示（DIGITAL）が点灯します。
- DTSソース再生中は、DTS表示（DTS）が点灯します。
- AACソース再生中は、AAC表示（AAC）が点灯します。

※ 再生ソースのフォーマットに応じて自動的に切り替わります。

5 **二重音声の情報があるソースを再生した場合：SURROUND PARAMETER ボタンまたは パラメーター ボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させ、SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押して設定する。**

< MAIN >

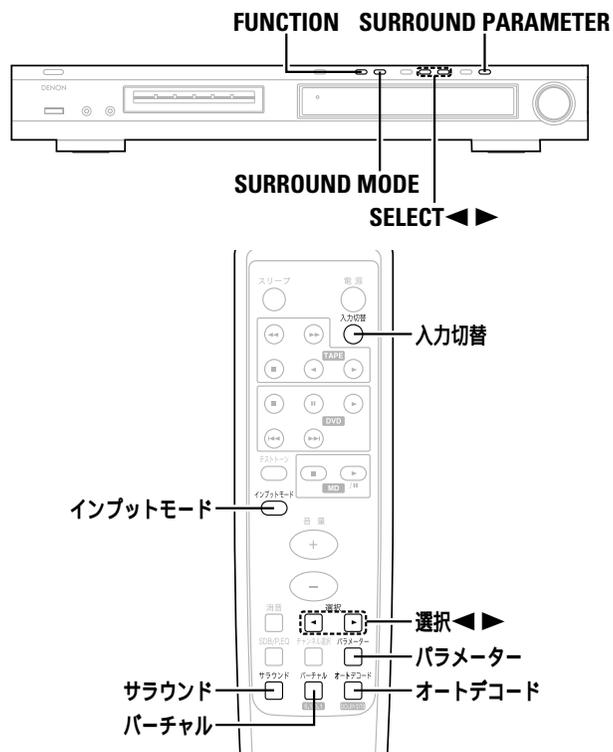
MAIN ＜工場出荷時＞：
主音声が出力されます。

SUB：
副音声が出力されます。

MAIN/SUB：
左チャンネルから主音声、右チャンネルから副音声が出力されます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したらボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

二重音声出力について

- PCMソース、アナログソースおよび二重音声の情報を持たないAACとドルビーデジタルソースの入力に対して、本機は主音声と副音声のどちらかを選択して音声出力する機能がありませんので、その場合はアナログ音声出力を使用し、出力機器側のアナログ音声出力設定で主音声と副音声を切り替えてください。出力機器側の主音声と副音声の切り替えについては出力機器側の取扱説明書をご覧ください。

■ 2チャンネルモードの再生

入力信号が2チャンネルの場合には、2チャンネルモードの設定により2つのデコードモード（ドルビープロロジックⅡ/オートステレオ）から1つを選択して設定できます。

1 **FUNCTION ボタンまたは 入力切替 ボタンを押して入力ソースを選択する。**

2 **インプットモード ボタンを押して入力モードを“ AUTO ”に設定する。**

※ DTSソースは入力モード“ DTS ”でも再生できます。

3 **SURROUND MODE ボタンまたは オートデコード ボタン押してサラウンドモードを“ AUTO DECODE ”に設定する。**

4 **プログラムソースを再生する。**

5 **SURROUND PARAMETER ボタンまたは パラメーター ボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させ、SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押して選択する。**

● **SELECT ◀ ▶** ボタンまたは **選択 ◀ ▶** ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

→ AUTO ST ↔ DD PLⅡC ↔ DD PLⅡM ↔ DD PLⅡG ←

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したらボタン操作を止めてください。数秒経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

メモ

● リニアPCM96kHzソースの場合は、自動的に“ STEREO ”モードで再生されます。サラウンドモードは“ STEREO ”および“ DIRECT ”モードのみ選択できます。

● アナログ入力を再生しているときは、2チャンネルモードの“ AUTO ST ”は選択できません。ステレオ再生をおこなう場合は、サラウンドモードで“ STEREO ”を選択してください（☞ 25ページ）。

● オートデコードモード（入力モード“ AUTO ”、2チャンネルモード“ AUTO ST ”の時）で再生するとディスクや放送の内容によって再生モードが自動的に次のようになります。

メディア	ソフトの内容	再生モード
DVD	ドルビーデジタル 5.1ch/6.1ch	5.1ch再生
	ドルビーデジタル 2ch（ドルビーサラウンド 2ch含む）	ステレオ再生（*）
	DTSデジタル 5.1ch/6.1ch	5.1ch再生
デジタル放送	AAC 5.1chサラウンド	5.1ch再生
	AAC 2ch（ドルビーサラウンド 2ch含む）	ステレオ再生（*）
CD	PCM ステレオ	ステレオ再生（*）

*：2chサラウンド（ドルビーサラウンド）やステレオのソフトを5.1chサラウンドで再生する場合は、2チャンネルモードを“ AUTO ST ”以外に設定してください。

《基本操作のしかた》

■ サラウンドパラメーター ①

AUTO ST（オートステレオモード）

＜デジタル入力の工場出荷時＞：

2chソースをステレオ2chで再生します。

オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースは自動的にステレオで再生します。

※アナログ入力では表示されません。

DD PLⅡ C（ドルビープロロジックⅡシネマモード）

＜アナログ入力の工場出荷時＞：

ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。

主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

DD PLⅡ M（ドルビープロロジックⅡミュージックモード）：

ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然で、かつ広がり感のある音楽再生をおこないます。

DD PLⅡ G（ドルビープロロジックⅡゲームモード）：

従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。

GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

ドルビーバーチャルスピーカーモードで音を聴く

- フロントL、Rとスーパーウーハーの2.1chでマルチチャンネルサラウンドの音場を再生できるモードです。
- ドルビーデジタル/DTS/AACのマルチチャンネルソースだけでなく2チャンネルソースにも効果的です。
  2チャンネルソースに対しては、ドルビープロロジックⅡシネマによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。
- 本機では3種類のスピーカーモードが選択できます。

1 **FUNCTION ボタンまたは 入力切替 ボタンを押して入力ソースを選択する。**

2 **インプットモード ボタンを押して入力モードを“ AUTO ”に設定する。**

※ DTSソースは入力モード“ DTS ”でも再生できます。

3 **SURROUND MODE ボタンまたは バーチャル ボタン押してサラウンドモードを“ DOLBY VS ”に設定する。**

4 **プログラムソースを再生する。**

5 **バーチャル ボタンを押してスピーカーモードを選択する。**

2-SPEAKER <工場出荷時>：
2.1ch再生でフロントL、Rスピーカーの音場について標準モードとワイドモードが選択できます。
サラウンドスピーカーの設置がむずかしいときに便利です。

3-SPEAKER：
3.1ch再生（2.1ch＋センタースピーカー）でフロントL、Rスピーカーの音場について標準モードとワイドモードが選択できます。
サラウンドスピーカーの設置がむずかしいときに便利です。

5-SPEAKER：
5.1ch（3.1ch＋サラウンドスピーカー）再生でフロントL、Rスピーカー音場を拡げるワイドモードで再生します。
フロントスピーカーの間隔が充分とれないときに便利です。

- 2-SPEAKER、3-SPEAKERを選択した場合は、操作 6 に進んでください。
- 5-SPEAKERを選択した場合は、操作 7 に進んでください。

6 **SURROUND PARAMETER ボタンまたは パラメーター ボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させ、SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択 ◀ ▶ ボタンを押して“ Ref. ”または“ Wide ”を選択する。**

7 **サラウンドパラメーターの設定が終了したらボタン操作を止める。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定される。**

≪基本操作のしかた≫

■ サラウンドパラメーター ②

DOLBY VS（ドルビーバーチャルスピーカーモード）：
- **Ref.（標準モード）：**
  標準的なモードです。
- **Wide（ワイドモード）：**
  フロントチャンネルの音場を拡大します。

音楽専用2チャンネル再生モードで音を聴く

- 本機には音楽専用の2チャンネル再生モードとして、2つのモードを装備しています。お好みに合わせてご使用ください。

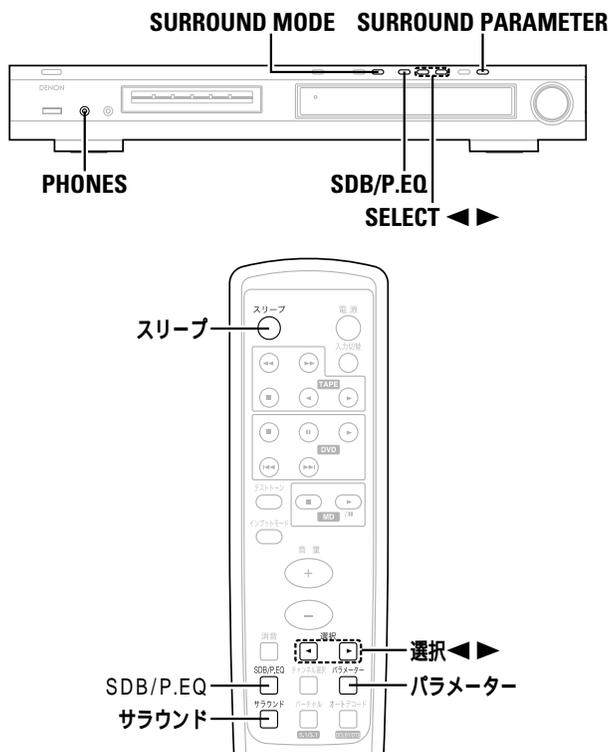
■ ステレオモード

トーンを調節して自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

SURROUND MODE ボタンまたは サラウンド ボタン押してサラウンドモードを“ STEREO ”に設定する。

■ ダイレクトモード

音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らずストレートに伝送されるので、よりよい音質で再生ができます。

SURROUND MODE ボタンまたは サラウンド ボタン押してサラウンドモードを“ DIRECT ”に設定する。

DENONオリジナルサラウンドについて

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。再生するソースに合わせて用意された6つのDENONオリジナルサラウンドモードを選択して、リスニングルームの状態によりパラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。なお、各サラウンドモードはドルビーサラウンドプロロジックまたはドルビーデジタル録音されていないソースでもその効果をお楽しみいただけます。

■ 各サラウンドモードとその特長

1	5CH STEREO	サラウンド信号のLチャンネルにはフロントLチャンネルの信号、サラウンド信号のRチャンネルにはフロントRチャンネルの信号を出力し、センターチャンネルにはLチャンネルとRチャンネルの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。
2	MONO MOVIE（注）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
3	ROCK ARENA	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	JAZZ CLUB	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	VIDEO GAME	ビデオゲームで楽しみたいときに使用します。
6	MATRIX	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドチャンネルからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。

注： モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
サンプリング周波数が96kHzのPCM信号再生時は「DIRECT」「STEREO」モードでのみお楽しみいただけます。他のサラウンドモードで再生中にこの信号が入力されますと、サラウンドモードは自動的に「STEREO」モードに切り替わります。

※ 再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

■ パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ソースごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

● パーソナルメモリープラス機能で各ファンクションごとに自動的に記憶される内容
　① サラウンドモード
　② 入力モード選択機能

※ サラウンドパラメーター、SDB/プリセットイコライザーの設定および各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

ドルビーヘッドホンモードで音を聴く

● 本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。
● ドルビーヘッドホンモードは音場効果により、4つのモードから選択できます。
● ドルビーデジタル、DTSおよびAACのマルチチャンネルソースに対応しており、2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定により、シネマとミュージックモードでのドルビーヘッドホン再生が選択できます。

1 PHONES ジャックにヘッドホン（別売り）を差し込む。

● ヘッドホンプラグを差し込むと、自動的にスピーカーより音が出なくなります。

2 SURROUND PARAMETER ボタンまたは パラメーター ボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させ、SELECT ◀ ▶ ボタンまたは 選択◀ ▶ ボタンを押して選択する。

● **SELECT ◀ ▶** ボタンまたは **選択 ◀ ▶** ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

DDH DH1 ←→ DDH DH2 ←→ DDH DH3 ←→ DDH BYPASS ←→ DDH DH1

● 2チャンネルソースの2チャンネルモード再生時はドルビーヘッドホンモードの選択後、再度 **パラメーター** ボタンを押すと下記の選択ができます。

CINEMA ←→ MUSIC

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したらボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

■ 通常の2チャンネルステレオで再生したい場合

SURROUND MODE ボタンまたは サラウンド ボタン押して " STEREO " または " DIRECT " を選択する。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ DOLBY H → STEREO → DIRECT →

■ サラウンドパラメーター ③

DD H（ドルビーヘッドホンモード）

- **DH1：**リファレンスルーム（小さな残響音の少ない部屋）
- **DH2：**ライブな部屋（DH1よりやや残響音の多い部屋）
- **DH3：**大きな部屋（DH1より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）
- **BYPASS：**ステレオ再生になります。

アナログ、PCMなどの2チャンネルソースを再生中に選択できます。以下のデコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。

- **CINEMA：**ドルビープロロジックⅡのシネマモード
- **MUSIC　：**ドルビープロロジックⅡのミュージックモード

スリープタイマーの設定

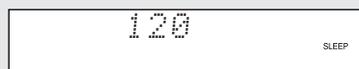
- 付属のリモコンを使用して、電源をスタンバイ状態にする時間（スリープタイマー）を最大120分まで設定できます。
- 設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】50分後に電源がスタンバイになるように設定するとき

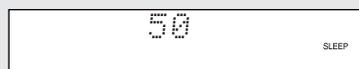
1 お好みのファンクションを選び、再生する。

2 スリープ ボタンを押す。

●" 120 " が表示され、" SLEEP " 表示が点滅します。

120　SLEEP

3 " SLEEP " 表示が点滅している間に スリープ ボタンを押し " 50 " を表示させる。

●" 50 " が表示され、" SLEEP " 表示が点滅します。

50　SLEEP

※ ボタンを押すたびに下記のように表示が切り替わります。

→ 120 → 90 → 60 → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → OFF →

※ 約5秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り " SLEEP " 表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定が完了です。）

4 50分後に電源がスタンバイになる。

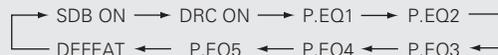
※ スリープタイマーを止めるときは、" OFF " が表示されるまで **スリープ** ボタンをくり返し押してください。

※ スリープタイマー動作中（" SLEEP " 表示中）に **スリープ** ボタンを押すと、動作開始までの残り時間を表示します。設定時間を変えたいときは、残り時間が表示されているときに操作 3 をおこない時間を変更してください。

音質の調節

1 SDB/P.EQ ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ SDB ON → DRC ON → P.EQ1 → P.EQ2 → P.EQ3 → P.EQ4 → P.EQ5 → DEFEAT →

SDB ON：
SDB（スーパー　ダイナミック　バス）を " ON " にし、迫力ある重低音が楽しめます。

DRC ON：
DRC（ダイナミック　レンジ　コンプレッション）を " ON " にします。ドルビーデジタルおよびDTS音声のダイナミックレンジを抑え、深夜など小さな音量で再生するときに便利です。（DTSソースの場合、DRC対応のソフトのみ表示されます。ソフトによっては効果がわかりにくい場合があります。）

P.EQ1〜5（プリセットイコライザー1〜5）：
低音と高音のバランスとサラウンドチャンネルのディレイを5種類プリセットしました。お好みに応じて選択してください。
P.EQ1: ロックに向いた音
P.EQ2: ポップスに向いた音
P.EQ3: ボーカルを強調する音
P.EQ4: ジャズに向いた音
P.EQ5: クラシックに向いた音

DEFEAT：
SDB、DRCおよびプリセットイコライザーとも " OFF " になります。

※ 各表示で約4秒間操作しないとディスプレイ表示は元の表示に戻ります。

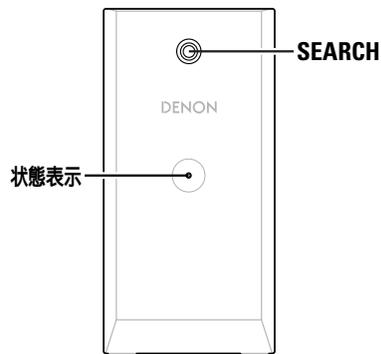
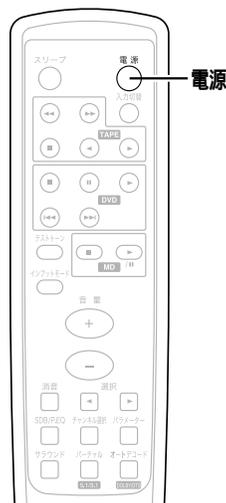
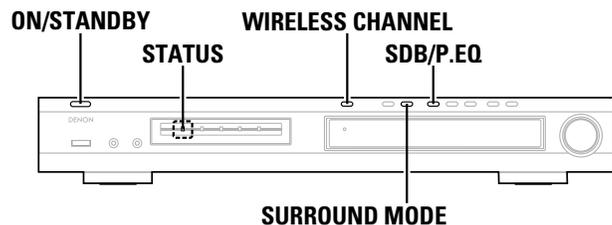
ラストファンクションメモリー機能

- 本機には電源を " OFF " にする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源を " ON " にすると、電源を " OFF " にする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
- また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源が " OFF " になったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態を保持することができます。

《基本操作のしかた》

応用操作のしかた

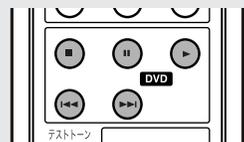
ON/STANDBY　STATUS　WIRELESS CHANNEL　SDB/P.EQ

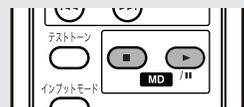
SURROUND MODE

リモコンによる他機器の操作のしかた

- 付属のリモコン（RC-1025）で、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。
- 操作する前に各機器の電源を入れてください。
- お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

テープデッキ（TAPE）の操作ボタン：

◀◀、▶▶　：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■　：停止
◀　：逆方向再生
▶　：正方向再生

DVDプレーヤー（DVD）の操作ボタン：

■　：停止
❚❚　：一時停止
▶　：再生
❙◀◀、▶▶❙　：オートサーチ（頭出し）

MDレコーダー（MD）の操作ボタン：

■　：停止
▶　：再生
❚❚　：一時停止

マイコンの初期化について

本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1　ON/STANDBY ボタンまたは 電源 ボタンを押してスタンバイ状態にする。
- STANDBY 表示が赤色になります。

2　10秒以上経ってから SURROUND MODE ボタンを押し、SDB/P.EQ ボタンを押してから、再度 SURROUND MODE ボタンを2秒以上押す。

3　数秒後、ディスプレイに“INITIALIZE”が表示され、電源が入る。
- マイコンが初期化します。

メモ

- 操作 3 の状態にならない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンや設定内容がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

ペアリングの初期化について

AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）とワイヤレスレシーバーアンプを近づけて、**SEARCH** ボタンを押しても **状態表示LED** が赤色のまま変らない場合は、AVサラウンドアンプとワイヤレスレシーバーアンプのペアリングに問題がある可能性があります。下記の操作でペアリングの初期化をおこなってください。

1　ワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）の電源プラグをコンセントから抜く。

2　WIRELESS CHANNEL ボタンを3秒以上押す。
- STATUS 表示が点滅に変わります。

3　ワイヤレスレシーバーアンプの電源プラグをコンセントに入れる。
- ペアリングを開始し、通信状態の良いチャンネルを自動的に選択します。

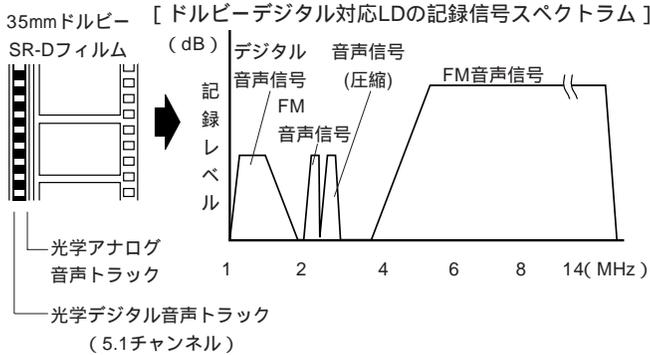
その他について

サラウンドについて

ドルビーサラウンドについて

■ ドルビーデジタル

- ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
  再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch（フロント左（FL）、フロント右（FR）、センター（C））とサラウンド2ch（サラウンド左（SL）、サラウンド右（SR））に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、さらにモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。
- また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
- この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

◎ SR-Dとドルビーデジタルの関係

◎ ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビーデジタル	ドルビープロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L/R/C/SL/SR/SW	L/R/C/S（SWは推奨）
音声処理	デジタルディスクリート処理 ドルビーデジタルエンコード/デコード	アナログマトリックス処理 ドルビーサラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

◎ ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法

ドルビーデジタル対応マーク：DOLBY DIGITAL
以下の内容は一般的な例です。
必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力専用同軸端子 ※1	入力モードを『AUTO』に設定します（☞ 20、21ページ）。
DVD	光デジタル出力（PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します（☞ 20、21ページ）。
その他（衛星放送、CATVなど）	光デジタル出力（PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します（☞ 20、21ページ）。

※1：デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

■ ドルビープロロジックⅡ

- ドルビープロロジックⅡは、従来のドルビープロロジック回路をさらに進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。
- ドルビーサラウンド録音されたソース（＊）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。
- サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。
- 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（☞ 24ページ参照）

＊：“ ドルビーサラウンド録音されたソース ” とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVCRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックⅡデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。
  ① PCMステレオ2ch信号
  ② ドルビーデジタル2ch信号
  いずれの信号が本機に入力されても『AUTO DECODE』モードで2chモードを『プロロジックⅡ』に選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックⅡ』となります。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“ Dolby ”、“ Pro Logic ” およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSデジタルサラウンドについて

- DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
- 再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
- DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生はフィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
  もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録できるため、他のフォーマットと同様の取り扱いができます。
- この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、本機やCDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
  DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いはなく、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

◎ DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光デジタル出力（PCMと共通）※3	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ 20、21ページ）。絶対に『ANALOG』や『PCM』モードには切り替えないでください。※2
LD（VDP）	光デジタル出力（PCMと共通）※3	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ 20、21ページ）。絶対に『ANALOG』や『PCM』モードには切り替えないでください。※2
DVD	光デジタル出力（PCMと共通）※4	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ 20、21ページ）。

※2： CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。本機やLD/DVDコンパチプレーヤーでDTS録音されたCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

※3： CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまずマスターボリウムを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（☞ 23ページ）が点灯することを確認してからマスターボリウムを上げるようにしてください。

※4： DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンス契約に基づき製造されています。
US Pat. No. 5.451.942、5.956.674、5.974.380、5.978.762、6.226.616、6.487.535その他、国外特許および特許出願物。“ DTS ”、“ DTS 96/24 ” はデジタル・シアター・システムズ社の商標です。1996,2003 Digital Theater Systems, Inc. 版権所有。

DTS-96/24について

- 現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit 5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。
  例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。しかし、それらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざるを得なく静止画像のみの収録が一般的です。
  また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。
  DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
- 従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度で留まっていたのに対して、DTS 96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。また、24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。
- DTS 96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS 96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。従って、DTS 96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像と共に楽しむことができます。また、DTS 96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※**5**）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。
- このように高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。さらに、DTS 96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です（※**6**）。

※**5**：DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24にて収録されたメディアが必要です。
※**6**：分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

AACについて

- MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
- その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。
  特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することができます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することができます。
- その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることができるため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
- MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

◎ MPEG2-AACのスペック（概要）

- アルゴリズム：
  MAINプロファイル
  LC(Low Complexity)プロファイル
  SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：
  最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：
  LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。
※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1、2、3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

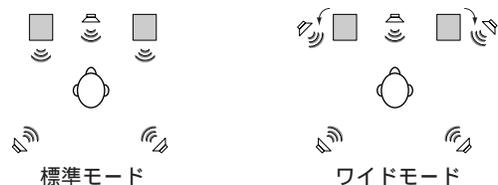
◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,490,170
5848391	4,914,701	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,268,685
5,451,954	07/640,550	5,375,189
5 400 433	5,579,430	5,581,654
5,222,189	08/678,666	05-183,988
5,357,594	98/03037	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/506,729
5,394,473	97/02874	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,717,821
5,274,740	5,227,788	08/392,756
5,633,981	5,285,498	

ドルビーバーチャルスピーカーについて

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント2チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

■ ドルビーバーチャルスピーカーの特長

- 正確なサラウンド音場定位
  仮想サラウンドスピーカーの位置は、左方向に105°右方向に105°として処理されます。
- マルチチャンネルプログラムを制作者の意図通りに再生
  各チャンネルの音はミキシング時に、設定された位置に再生されます。例えば、左後方に設定されたものは左後方から聞こえます。
- ステレオプログラムがサラウンドに
  ドルビープロロジックⅡとの連携動作によりステレオプログラムからも豊かなサラウンド音場を創造します。
- リスニングモード選択
  標準（REFERENCE）モードとワイド（WIDE）モードが提供されます。

■：フロント2チャンネル
((◁：ドルビーバーチャルスピーカーによる仮想音源

※ 本機ではスピーカー構成を変更した場合も、それぞれのドルビーバーチャルスピーカーモード再生に対応しています。
① 3スピーカー（フロント2チャンネル＋センター）：標準/ワイドモード
② 5スピーカー（フロント2チャンネル＋センター＋サラウンド2チャンネル）：ワイドモード

《その他について》

ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。
元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中でなってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシミュレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ/ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。
ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

《その他について》

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード DVS: Dolby Virtual Speaker DH: Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否													
		チャンネル出力				ファンクションごとの再生信号とサラウンドモード									
						DVD, TV/AUX1, MD/AUX2									DVD, VCR, MD/TAPE, PORTABLE, TV/AUX1
		フロント L/R	センター	サラウンド L/R	スーパーウーハー	ドルビーデジタル信号再生時		DTS信号再生時			AAC信号再生時		PCM信号再生時		アナログ信号再生時
						2チャンネル	マルチチャンネル	2チャンネル	マルチチャンネル	Fs:96kHz	2チャンネル	マルチチャンネル	2チャンネル	Fs:96kHz	2チャンネル
AUTO DECODE	Dolby Digital	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	DTS Surround	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	DTS 96/24	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
	MPEG2 AAC	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Dolby PLII Cinema	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○
	Dolby PLII Music	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○
	Dolby PLII Game	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○
	AUTO STEREO	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○	×	×
DVS	2 SPEAKER	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	3 SPEAKER	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	5 SPEAKER	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
DH	DH1	○ (H/Pのみ)	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	DH2	○ (H/Pのみ)	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	DH3	○ (H/Pのみ)	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	BYPASS	○ (H/Pのみ)	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
STERO		○	×	×	○	○	○ (D.MIX)	○	○ (D.MIX)	○	○	○ (D.MIX)	○	○	○
DIRECT		○	×	×	○	○	○ (D.MIX)	○	○ (D.MIX)	○	○	○ (D.MIX)	○	○	○
5CH STEREO		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
MATRIX		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○

○　：再生信号あり、または選択可能
×　：再生信号なし、または選択不可能

D.MIX：ダウンミックス処理により対応
H/P　：ヘッドホン

サラウンドモード DVS: Dolby Virtual Speaker DH: Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否									
		SDB/P.EQ （初期設定：DEFEAT=すべてオフ）			サラウンドパラメーター						
					多重信号（1+1）（＊2）			DVSモード		PLⅡモード（＊3）	
		SDB ON	DRC ON（＊1）	P.EQ1~5	Main	Sub	Main/Sub	Ref.	Wide	Cinema	Music
AUTO DECODE	Dolby Digital	○	○	○	○	○	○	–	–	–	–
	DTS Surround	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	DTS 96/24	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	MPEG2 AAC	○	×	○	○	○	○	–	–	–	–
	Dolby PLⅡ Cinema	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	Dolby PLⅡ Music	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	Dolby PLⅡ Game	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	AUTO STEREO	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
DVS	2 SPEAKER	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
	3 SPEAKER	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
	5 SPEAKER	○	○	○	○	○	○	×	○	–	–
DH	DH1	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○
	DH2	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○
	DH3	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○
	BYPASS	○	○	○	○	○	○	–	–	×	×
STERO		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
DIRECT		×	×	×	–	–	–	–	–	–	–
5CH STEREO		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
MONO MOVIE		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
ROCK ARENA		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
JAZZ CLUB		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
VIDEO GAME		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
MATRIX		○	○	○	–	–	–	–	–	–	–

○　：選択可能
×　：選択不可能
–　：該当せず

＊1　：DOLBYおよびDTSのDRC（ダイナミックレンジ圧縮）対応ソフトのみ選択可能
＊2　：DOLBYおよびAACの多重信号（信号フォーマット：1+1）ソフトのみ選択可能
＊3　：PCM、DOLBY、DTSおよびAAC（信号フォーマット：2/0/0）ソフトのみ選択可能

保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。
※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

故障かな？と思ったら

■ 各接続は正しいですか
■ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
■ スピーカーや接続した機器は正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	ー
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーコードの接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	12
	● ファンクションが不適当である。	● 正しいファンクションに切り替えてください。	20
	● VOLUMEつまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	20
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	20
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	20、23
	● パワーアンプの保護回路が動作している。	● 電源プラグを抜いて配線や接続を確認してください。	11
ディスプレイの音量表示が点滅している。	● 本体の温度上昇による保護回路が動作している。	● 電源プラグを抜いて本体が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。	11
AAC表示が点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	18
DTS音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。	ー
	● DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。	ー
	● 本機の入力モードが“ANALOG”になっている。	●“AUTO”または“DTS”に設定してください。	20、23

現　象	原　因	処　置	関連ページ
サラウンドスピーカーから音が出ない。(STATUS表示が青色に点滅または消灯している。)	● AVサラウンドアンプ（AVC-S7000）とワイヤレスレシーバーアンプ（RV-S7000）との通信がうまくいってない。	● 見通しの良いところへワイヤレスレシーバーアンプを移動してください。	ー
		● SEARCHボタン押してください。	15
		● WIRELESS CHANNELボタンを押して通信チャンネルを変更してください。	15
		● 設置場所を変えてみてください。	ー
		● ペアリングをやりなおしてください。	28
	● AVサラウンドアンプとワイヤレスレシーバーアンプとの距離が離れ過ぎている。	● 電波の届く範囲内で使用してください。	15
サブウーハーから音が出ない。	● サブウーハーの電源が入っていない。	● 電源を入れてください。	ー
	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	12、19
モニターが映らない。	● 出力機器の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	13、17、18
	● モニターTVの入力設定が違う。	● テレビの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	ー
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがオートデコード以外のモードになっている。	● オートデコードモードにしてください。	22
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	ー
リモコンで操作できない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池に交換してください。	14
	● リモコンとリモコン受光部との間が離れすぎている。	● リモコン受光部に近づいてください。	14
	● リモコン受光部との間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	14
	● 乾電池の⊕、⊖が間違っている。	● ⊕、⊖を確かめて正しく入れてください。	14

主な仕様

■ オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力	**AVC-S7000** フロント　：50W＋50W（負荷6Ω）（EIAJ） センター　：50W　（負荷6Ω）（EIAJ） スーパーウーハー：50W　（負荷6Ω）（EIAJ） **RV-S7000** サラウンド　：50W＋50W（負荷6Ω）（EIAJ）
出力端子	6Ω～16Ω
入力感度	300mV/47kΩ（PORTABLEを除く） 150mV/47kΩ（PORTABLE）
周波数特性	10Hz～50kHz：＋1.5dB、－3dB （アナログ入力ダイレクトモード時、総合）
S/N比	90dB（アナログ入力ダイレクトモード時）
プリアウト定格出力	0.6V
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	**AVC-S7000** 電源入り（ON）時　：140W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W以下 **RV-S7000** 電源入り（ON）時　：47W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W以下
最大外形寸法	**AVC-S7000** 434（幅）× 70（高さ）× 318（奥行き）mm **RV-S7000** 80（幅）× 160（高さ）× 182（奥行き）mm （フット、つまみ、端子を含む）
質量	**AVC-S7000** 6.4kg **RV-S7000** 0.9kg

■ リモコンユニット　**RC-1025**

リモコン方式	赤外線パルス式
電源	DC3V 単4形（R03/AAA）乾電池2本使用
最大外形寸法	46（幅）× 180（高さ）× 28（奥行き）mm
質量	100g（乾電池を含む）

■ スピーカー部

● フロントスピーカー　**SC-A7000**

形式	2ウェイ/3スピーカー、密閉型、防磁設計、ブックシェルフ、P.P.D.D. ウーハー（8cm コーン形×2）、 ツィーター（2.5cm バランスドーム形×1）
再生周波数帯域	120Hz～20kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
クロスオーバー周波数	約9kHz
最大外形寸法	88（幅）× 250（高さ）× 118（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.6kg（1台当り）

● センタースピーカー　**SC-C70**

形式	2ウェイ/3スピーカー、密閉型、防磁設計、センター、P.P.D.D. ウーハー（8cm コーン形×2）、 ツィーター（2.5cm バランスドーム形×1）
再生周波数帯域	120Hz～20kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
クロスオーバー周波数	約9kHz
最大外形寸法	250（幅）× 88（高さ）× 118（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.6kg（1台当り）

● サラウンドスピーカー　**SC-A700**

形式	2ウェイ/2スピーカー、密閉型、防磁設計、ブックシェルフ ウーハー（8cm コーン形×1）、 ツィーター（2.5cm バランスドーム形×1）
再生周波数帯域	120Hz～20kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
クロスオーバー周波数	約8kHz
最大外形寸法	88（幅）× 160（高さ）× 118（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.0kg（1台当り）

● スーパーウーハー　**DSW-70**

形式	1ウェイ/1スピーカー、バスレフ型、防磁設計 16cm コーン形×1
再生周波数帯域	30Hz～240Hz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	60W（EIAJ）、120W（PEAK）
最大外形寸法	135（幅）× 420（高さ）× 304（奥行き）mm （DENONマークを含む）
質量	5.5kg（1台当り）

※　EIAJ：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：03-6731-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　00D 511 4411 001